

# Oral Interaction による新教材導入の方法

静岡大学名誉教授 三浦 孝

## 1. Oral Interaction とは何か

(i) 新教材の導入時に、これから習う英文の内容を、既習文で易しく言い換えて、対話形式で伝えること。Oral Introduction と呼ばれるが、教師が生徒と対話を取りながら行うという意味をこめて、ここでは Oral Interaction という用語を用いる。

☆ 未習語・未習文法事項は極力避ける。(Oral Interaction の英語が新教材より難しくなるのは絶対にあってはならない)

☆ 本時の新出語は入れてもよいが、その意味を生徒が文脈から推測できる工夫を十分にすること。

(ii) 50 分授業で、Oral Interaction にかける時間はせいぜい 15 分までが望ましい。

(iii) 新教材全部を完全に理解させようとしてはいけない。部分的な理解や、大まかな理解を養うことに留める。

(iv) 絵や実物・ジェスチャーなどを用いて理解を助ける。絵は、教室の最後部からでもはっきりと見られるよう、A3 サイズ以上の大きな厚紙に描くこと。あるいは、教室に映像投影装置があれば、自分が描いた絵をパワーポイント等に取り込んで使ってもよい。

ここで大切なのは、絵はぜひとも手描きで描くことである。細密でなく、ポイントのみを描いた大まかな絵を、太い輪郭で描くこと。よく、描画が苦手だからといって、写真やダウンロードした画像を使う人がいるが、これでは絵のポイントがわかりにくい。書店で扱っている「略画辞典」等を活用して、ぜひ自分で絵を描くことを勧める。仮に教師の描いた絵が下手であっても、生徒はそれに大きな親近感を持つものである。

(v) 生徒をおいてきぼりにして一方的に話してはいけない。

☆ 大事なところは板書し、繰り返し、リピートさせる。

☆ 部分的繰り返し / 全体の繰り返し、を

☆ 問答形式で対話を多くし、理解を確認しながら進める。

## 2. MERRIER チェックリストの活用

教師が英語で教えるとは、「私の英語はこんなに流暢なんだよ、すごいでしょ！」と生徒を置き去りにして見栄をはることは断じてない。たとえ流暢でなくとも、生徒が理解できるように、入念に計画され工夫された親切な英語が鉄則である。

生徒が十分に理解できる Oral Interaction を行うためには、酒井・他（2003）

が提唱する MERRIER のチェックリストが参考になる。MERRIER とは、教師の英語による授業をわかり易くする次の 7 条件の頭文字である。

表 5 . MERRIER チェックリスト

1	Model/mime	お手本や実演で示す	(例)対話活動導入は、まず教師が 1 人 2 役でやってみせる。 I have a fever--体温計の模型で 39 度を指しながら
2	Example	具体例で示す	“ <u>furniture</u> -desks, chairs, tables, beds, lamps” . “ <u>surname</u> -my <u>surname</u> is Miura. Your <u>surname</u> is Kimura. Her <u>surname</u> is Inoue.
3	Redundancy	わかりやすくするために、1 つのことを 2 ～ 3 通りで言う	(例)I must see a <u>dermatologist</u> -I must see a <u>skin doctor</u> . (例) Don't <u>yell</u> -Don't shout, don't cry in a loud voice.
4	Repetition	大事なところを繰り返して聞かせる	You have <u>an interview test the day after tomorrow</u> . It's an interview test -you talk with me in English. OK? The test is on the day after tomorrow—two days later.
5	Interaction	生徒と対話しながら進める	I bought a wallet-wallet-do you know a wallet?-This is my wallet-Show me your wallet.-Yes, it' s a wallet, beautiful, thank you.-So, I bought a wallet and....
6	Expansion	生徒が出した不完全な答えを、教師の援助でより正確なものにする。	教師 : What is your hobby? 生徒 : Anime. 教師 : Oh, really. Animation. That's interesting. Do you like watching animation? Or do you like drawing animation? 生徒 : Drawing animation. 教師 : Great! So, your hobby is ---? 生徒 : My hobby is drawing animation. 教師 : Wonderful! (このようにして、より

			良い形に持ってゆく)
7	Reward	良いところを見つけてまず誉める	Good! / Good job! / Excellent! / Wonderful! / Well done! / Almost! / You're close! / Thanks for your idea! / Good try! / Interesting! / Good answer.

酒井英樹・塩川春彦・浦野研（2003）pp.3-17 より （説明と表現例は筆者改作）

TETE(Teaching English Through English)で授業を行なう際には、①事前に授業の想定問答を書いてみて、②その英語を MERRIER チェックリストに照らして点検する、作業を行っておくとよい。

### 3. 中学校テキストの Oral Interaction の実例

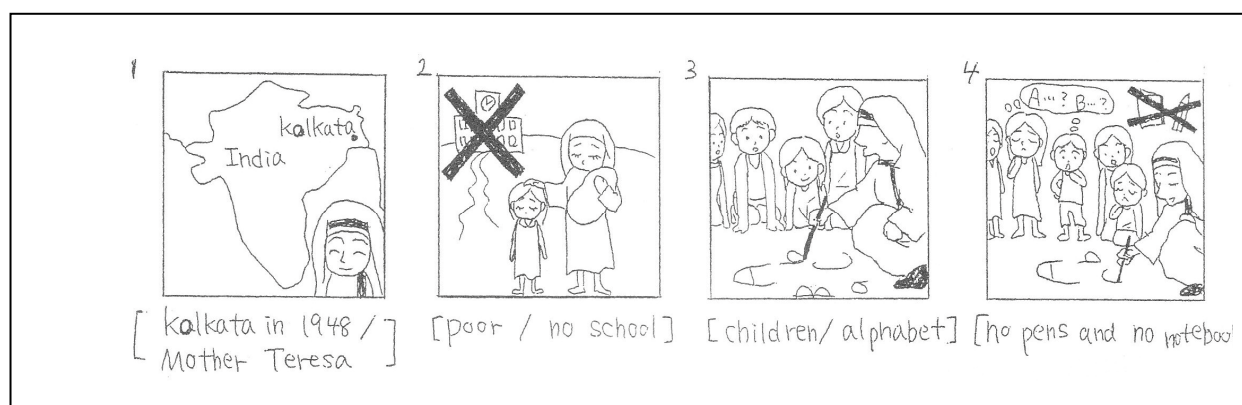
（Sunshine English Course 2. 2005. Program 4 ‘With Love and Joy’, Part-1 の導入）

<テキスト本文：（下線部は新出単語）>

Mother Teresa began her work for children in Kolkata in 1948. In some parts of the city, the people were very poor and they had no schools for their children. Mother Teresa gathered together some children and taught the alphabet to them. It was not easy because they had no pens and notebooks.

#### <Oral Interaction 手順>

下記のような大きな Picture Cards を黒板に張り、それを指差しながら、生徒が知っている英語でストーリーを話して聞かせる。



PC-1 Today, we are going to study about this lady. (PC-1 の Mother を指差す)

You also see her pictures on pages 34 and 35 in your textbook. (教科書の写真も見せる)

So, who is she? (答える生徒がいたら儲けもの)(いない場合は次を問う)

Is she Princess Teresa, Miss Universe Teresa, or Mother Teresa?

She is Mother Teresa. (用意してきた白いスカーフを頭にかけて、胸の上で十字を切って)

**Repeat: "She is Mother Teresa."** (2回)

<PC-1のIndiaを指差して> Look at this country. This country is China?, Australia?, or India?

Yes, it is India. Very good. Look at this city. It is Kolkata. It's a big city in India. Mother Teresa worked in Kolkata. **Repeat: "Mother Teresa worked in Kolkata."** (2回)

<PC-2> Look at picture 2. Look at these people. They didn't have money. They didn't have food. They were poor. (絵の中の学校を指差して) Look at this. —It's a school—Yes. Did they have schools? No, they had no schools.

**Repeat: 'They had no schools.'** (2回)

<PC-3> Look at picture 3. (絵の中の子供を1人ずつ指差して) Look at them. This is a child---one more child---one more child---one more child. One child, two children, three children, four children. Mother Teresa taught these children. **Repeat: 'Mother Teresa taught these children.'** (2回)

What did she teach? Do you know? (地面の文字を指差して) She taught these. (黒板にA, B, C, D---と書き) What are these? (と困って見せて)「アルファベット」と答える生徒がいたらうれしい。Yes, the alphabet. Mother Teresa taught the alphabet. **Repeat: 'Mother Teresa taught the alphabet.'** (2回)

<PC-4> Look at picture 4. Where did they study, in the classroom or on the ground? —On the ground.—Why on the ground? —Because they had no schools. **Repeat: 'Why on the ground? —Because they had no schools.'** (2回) They studied on the ground because they had no schools. Where did they write the alphabet? --On the ground.—Why on the ground? Because they had no pens and notebooks. **Repeat: 'Why on the ground? Because they had no pens and notebooks.'** (2回)

Was it easy? On a rainy day (雨で文字が流れるアクションをして見せる)、on a hot day (日射病で倒れるアクション)、strong wind (風で文字が吹き飛ぶアクション)。No, it was not easy. Mother Teresa's work was not easy. **Repeat: "Mother Teresa's work was not easy."** (2回)

最後に、PC を指差しながら、これまで提示した英文を連続して話して聞かせる。

**She is Mother Teresa. She worked in Kolkata in India. She taught the alphabet to children. The children had no schools. They had no pens and notebooks. So Mother Teresa's work was not easy.**

Okay, now let's open the textbook and read the story.

以下は、先述の Mother Teresa の Oral Interaction を含んだ指導プランである。

## 英語科学習指導案

教育実習生・三浦 孝

1. 日時：平成 24 年 6 月 25 日（水）第 3 限（11：50～12：40）
2. 指導クラス：〇〇中学校 2 年 1 組（男子 18 名，女子 20 名）
3. 使用教科書：開隆堂 Sunshine English Course 2, Program 4 “With Love and with Joy”

### 4. 学習環境について

#### (1) 生徒の実態

（生徒のコミュニケーションへの関心・意欲・態度，理解力、目指すコミュニケーション能力についての現在までの実態などを記入する。本書では省略する。）

#### (2) 題材観：

##### ア）内容・題材の観点から：

インドで、何万人もの行き倒れの人々を収容して看護し（あるいは看取り）、身寄りの無い子供たちを引き取って育てることに一生を捧げたマザー・テレサの働きを扱ったレッスンである。マザー・テレサについては、ノーベル賞を受賞したこともあり、ほとんどの生徒が既に多少の知識を持っていると思う。このレッスンでは、そうした生徒の持つ既存知識を汲み出す形で授業を進めたい。

よく知られた人物であるが、細部はあまり知られていない。36 歳で彼女が、高等学校の校長として既に確立した地位にいたにもかかわらず、自覚した「天命」に従って、たった一人で救済に取り掛かったことは、生徒の将来の使命感を考える上でも、参考にしたい。*“I realized that I had the call to take care of the sick and the dying, the hungry, the naked, the homeless - to be God's Love in action to the poorest of the poor. That was the beginning of the Missionaries of Charity.”*

また、貧しい人々を救済することが、一方的に彼らを哀れむのではなく、むしろ彼らから教えられ励まされることなのだという言葉をも紹介したい。

*“The poor give us much more than we give them. They're such strong people, living day to day with no food. And they never curse, never complain. We don't have to give them pity or sympathy. We have so much to learn from them.”*

##### イ）言語材料の観点から：

- i) “It was not easy because they had no pens and no notebooks.”で、because+S+V の文を学習する。
- ii) “Don't only give your care, but give your heart as well”で、not only --- but ~ という連語を学習する。
- iii) この単元は、2 年生で初めて本格的な読み物として登場しており、しかも英文の難度がやや高い。このような読み物の扱い方として、次の 2 点を工夫することにする：
  - ① Pre-reading で、読み物の内容を教師が平易な会話体に直して実演して聞かせ、生徒の内容を援助する。
  - ② While-reading では、読んだ英文の内容を、別のフォーマットに変換する、というテクニックを使って、訳読に依存しない内容理解をはかる。

③Post-reading では、英文をフレーズごとに区切って、日本語の訳語を聞いてその部分の英語を言う練習を通して、意味を定着する。

ウ) コミュニケーションの観点から：

- ①because を用いて、自分の主張に理由を付け加えることができるようにする。
- ②Mother Teresa に関する文章の中で、自分が好きな文章や語句を抜き出し、なぜそれが好きなのかを表現しあう。
- ③“Did you do anything to help other people?” “Did you do anything to save the earth?” “What did you do?”を使って、お互いにボランティアの体験を話しあうインタビュー活動を行う。

5. 教材の配列：

第1回：4-1 (p.34) (本時)

第2回：4-2 (p.35)

第3回：4-3 (p.36)

第4回：After Reading (p.37)とコミュニケーション活動

6. 本時の指導 (第1回： p.34)

(1) 教材 (コピーを別紙に添付)

(2) 本時の目標：

ア) 内容事項

生徒たちが、Mother Teresa について知っていることを、英語の対話によって引き出す形で、話題を導入する。

イ) 言語事項

because を用いて、意見や行為の理由を述べたり、理解できるようにする。

ウ) コミュニケーション活動

ペアで、それぞれ異なるスケジュール表を持ち、お互いに都合を協議して、デートできる時間の合意を取り付ける。都合は、“I am busy because I have my club activity.”のように、because で表現する。

(3) 用意するもの：

CD プレーヤー、テキスト朗読 CD、英単語フラッシュカード、ストーリーの Picture Cards、コミュニケーション活動用のスケジュール表

(4) 指導手順： 別紙参照

関連資料：

Mother Teresa: (1910—97) 修道女。旧ユーゴスラビア (現マケドニア) のスコピエ出身。幼名はアグネス・ゴンジャ・ボヤージュ。1928 年アイルランドのロレット修道会に入り、志願してインドに渡る。29～48 年カルカッタ (現コルカタ) のセントメリー高等学校の教師、校長を務める。1946 年 9 月 10 日、神の召命を受け「貧しい人のなかでもいちばん貧しい人たちのために一生を捧(ささ)げる」ことを決意する。48 年インド国籍を取得、ロレット修道会を離れ、ひとりでカルカッタの貧民街で活動を始める。50 年「神の愛の宣教者会」女子修道会を創立、以来「マザー・テレサ」とよばれる。「死を待つ人の家」「孤児の家」「救癪(らい)活動」の施設をインド各地に展開、79 年ノーベル平和賞を受賞する。インドのみならず世界各地に施設を広げ活躍する。81 年 (昭和 56) 初来日。97 年 9 月 5 日心臓発作のため死去。13 日カルカッ

タ市内で国葬、遺体は修道会本部に埋葬された。87歳。



(4) 指導手順その1

過程	時間	生徒の学習活動	教師の支援	評価の観点
1 挨拶	1分	英語で笑顔でアイ・コンタクトを持って周囲の数人と挨拶を交わす。	最初に教師が生徒全員と挨拶してお手本を見せる。返事がワンパターンにならないように注意したい。	アイ・コンタクトを持つことができたか、人間らしい対話の表情が出せたか。 積極的に応えられたか。
2 ウォームアップ	3分	Body Action Song の “Head and Shoulders” をみんなで歌い、動作する。	この歌を歌うのは今日が最初なので、一節ずつ歌唱指導をする。	
3 前時の復習	3分	前時の復習 英語の天気予報の聞き方を復習する。NHK ラジオの英語放送を聴いて各地の天気をメモする。	聞き取るべき地域だけに注意を集中して聞くよう助言する。	表にメモできたかどうか。 聞き取りの結果を発表できたか。
4 新教材の導入	10分	<b>Oral Interaction に参加する</b> (1) Mother Teresa という人物について、自分たちが知っていることを出し合う。 (2) PC1~4 を見ながら、先生の英語の説明を聞き、p.34 のストーリーの概略をみんなで推測しあう。 (3) フラッシュカードで新出語の意味を理解し、発音に慣れる。(joy, begin, began, children, child, poor, gather, alphabet, because)	<b>Oral Interaction を行う</b> (1) 生徒から出てきた「知っていること」を、板書し、英訳して全員に還元する。 (2) PC1~4 を掲示し、それについて既習の英語で説明し、問答形式で内容の推測を引き出す。 (Picture Cards と問答文については p.95 参照) (3) フラッシュカードで新出語の意味を確認し、発音のモデルを与える。ただしこの段階では理解にとどめる。	問答で、どのようにクラスとしての理解に貢献したか。

(4) 指導手順その2

過程	時間	学習活動	指導・支援上の配慮事項	評価の観点			
5 理解の活動	15分	ここで本時のテキストを開く。 (1)流される朗読CDに合わせて p. 34 を黙読し、内容の概略を読み取る。 (2)内容について Say True or False にこたえる。False の場合は、どう言い替えたなら正しくなるか、教科書本文から探し出す。 (3)教師―生徒の共同訳で内容を日本語で確認する。 (4)p. 34 を教師のあとについて音読する。 (5)ストーリー内容について、Wh-question に答える。	(1)CDは2回続けて流し、内容を読み取る時間を与える。 (2)Say True or False は生徒に答えやすいので、理解活動の初めに用いる。 (3)All in English の理解チェックだけでは不安を感じる生徒もいるので、ここで和訳を入れる。共同訳は、時間を取らずにできるので便利。 (4)本文をフレーズごとに切って、2 回リピートする。 (5)Wh-question でやや高度な内容理解を行う。	英問英答で、安心して risk-taking できるか。  生徒は共同訳に貢献できたか。  新出語が正しく発音できているか。 英問英答で、安心して risk-taking できるか。			
6 応用の活動	15分	(1) 英文がスラスラ音読できるようにする。 (2) because を用いて、原因と結果を表わす練習問題を解く。 (例) a. Because I love animals, b. Because I went to be late, c. Because I want to be a pro soccer player, (3) コミュニケーション活動 ペアで、それぞれ異なるスケジュール表を持ち、お互いに都合を協議して、デートできる時間の合意を取り付ける。(別紙参照)	いろいろな工夫をして、合計 6 回は音読する。最後に、スラスラ音読できているかどうか、列ごとに当てて確認する。  <table><tr><td>(i) I am sleepy this morning.</td></tr><tr><td>(ii) I want to be a pet doctor.</td></tr><tr><td>(iii) I practice soccer every day.</td></tr></table> 最初に活動の仕方を、教師が十分に実演してみせること。 互いに、スケジュールを変更してでも、歩み寄ることを奨励する。	(i) I am sleepy this morning.	(ii) I want to be a pet doctor.	(iii) I practice soccer every day.	テキストがスラスラ音読できるようになったか。  because を使って、左右の文を論理的に並べられたか。  理由や提案や、あいずちなど、言葉を豊かに使いながら交渉できたかどうか。
(i) I am sleepy this morning.							
(ii) I want to be a pet doctor.							
(iii) I practice soccer every day.							
まとめと挨拶	3分	①宿題の指示：テキスト本文を、スラスラ暗唱できるよう、練習してくる。					

#### 4. 高校テキストの Oral Interaction の実例

(PRO-VISION English Course 1, 2011. Lesson 8 Legendary Speech in Rio, Part-1 の導入)

<テキスト本文(下線部は新出単語)>

### Legendary Speech in Rio

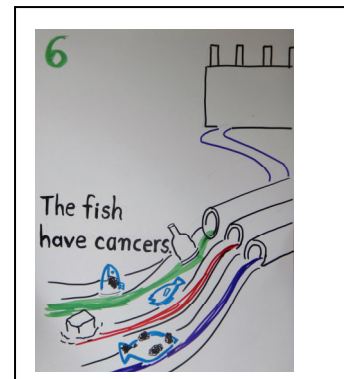
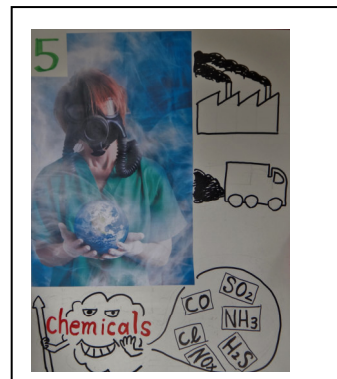
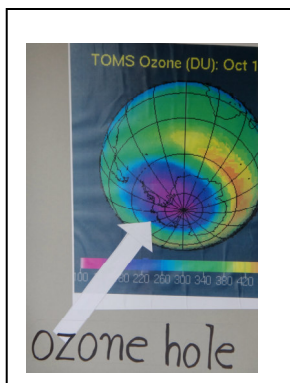
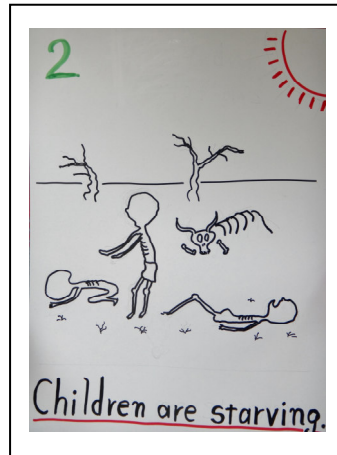
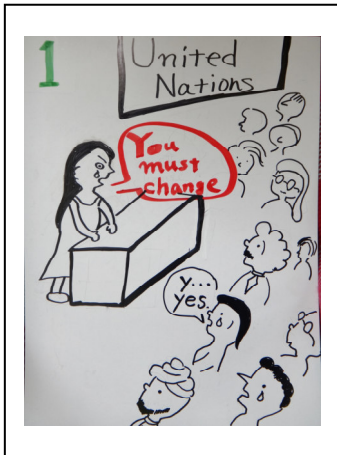
Hello, I'm Severn Suzuki speaking for the Environmental Children's Organization (ECO). We are a group of twelve- and thirteen-year-olds from Canada trying to make a difference. We raised all the money by ourselves to come six thousand miles to tell you adults that you must change your ways.

I am here to speak for all generations to come. I am here to speak for starving children around the world. I am here to speak for the millions of animals dying on this planet because they have nowhere to go.

I am afraid to go out in the sun now because of the ozone hole. I am afraid to breathe the air because I don't know what chemicals are in it.

I used to go fishing in Vancouver with my father until we found fish full of cancers just a few years ago. Now we hear about animals and plants going extinct every day---vanishing forever.

<手順：オーラル・インタラクションの picture cards とシナリオ>



(下線部が、目標とする導入文)

Today we are going to listen to a very famous speech—a legendary speech.

‘Legendary’ (板書) means ‘very famous.’

1. (PC1 を見せて) Look at this girl. She is Severn Suzuki. She’s 12 years old. Severn is a 12-year-old girl. (リピート 2 回) Now she is in Rio de Janeiro in Brazil. (南米大陸の略図を描き、Rio の位置を示す。) What is she doing there? Is she singing, dancing, or speaking? She is speaking. Look at her face. Is she happy or sorry? She is sorry, very sorry. Why is she sorry?

2. (PC 2 を見せて) Look at the second picture. What do you see? Yes, children. Are they hungry? Yes, they are very very very very hungry. Many children are starving. ‘Starving’ (板書) means that they have no food for many days. Severn is sorry because many children are starving. (リピート 2 回)

3. (PC 3 を見せて) Look at picture 3. What do you see? Yes, a bear. Does the bear have her home? No, People have destroyed her home. So, the bear is dying. Millions of animals are dying. Severn is sorry because millions of animals are dying. (リピート 2 回)

4. (PC 4 を見せて) Look at picture 4. What do you see? You see the earth. Look at the purple part in the picture. It is a big ozone hole. Have you heard about ozone (Ozone= $O_3$  と板書)? Ozone is very important for us. Ozone stops dangerous lights for us. When there is an ozone hole, dangerous lights come to the earth. So Severn is afraid. She is afraid to go out/ because there is an ozone hole. (リピート 2 回)

5. (PC 5 を見せて) Look at picture 5. Look at the air. Is the air clean or bad? It's bad. She is afraid about the bad air. There are bad chemicals in the air. (chemicals:(e.g.) $H_2SO_4$ ,  $HCl$ ,  $HNO_3$  と板書) So she is afraid to breathe the air. 'Breathe' (動作・板書) means to take in air and let it out. She is afraid to breathe the air/ because there are chemicals in it. (リピート 2 回)

6. (PC 6 を見せて) Look at picture 6. Look at the water. Is the water clean or bad? It's bad. She is very afraid about the bad water. There are bad chemicals in the water. Look at these fish. They are sick. They have cancers all over. (PC6 の魚の癌を指さして cancer を板書) She is afraid about the chemicals in the water. (リピート 2 回)

7. 全体を振り返って So Severn is worried about starving children, dying animals, the ozone hole, bad air, and bad water. Who made these problems? --Did children make these problems? No. Did adults make these problems? Yes, adults. Adults (板書) ---do you know this word? Adults—people 20 years old or older. Are you adults? No, you are not. You are now 17, so you are not adults.

8. Look at picture 1 again. Now Severn has come to a United Nations meeting.(United Nations=UN と板書) Do you know United Nations? (挙手させる。もし知っている生徒が少なければ追加説明をする。) Look at these adults. They are leaders from countries all over the world. At the UN meeting she says, "Adults, you must change." (リピート 2 回)

ここで、全体の話を通してもう一回繰り返す。

① **Severn is a 12-year-old girl.**

② **She is sorry/ because many children are starving.**

- ③ She is sorry/ because millions of animals are dying.
- ④ She is afraid to go out/ because there is an ozone hole.
- ⑤ She is afraid to breathe the air/ because there are chemicals in it.
- ⑥ She is afraid/ about the chemicals in the water.
- ① At the UN meeting she says,/ “Adults, you must change.”

以下は、先述の Legendary Speech の Oral Interaction を含んだ指導プランである。

### 英語科学習指導案

静岡大学教育学部・三浦 孝

- 1. 日時：平成 24 年 11 月 9 日（金）第 6 限（14:45～15:35）
- 2. 指導クラス：〇〇高校 1 年 A 組（男子 13 名，女子 11 名）
- 3. 使用教科書：桐原書店 *PRO-VISION English Course I*, Lesson 8 Legendary Speech in Rio, Part 1 (p.91)

#### 4. 学習環境について

##### (1) 生徒の実態

このクラスの生徒は、去る 9 月に 1 回授業見学をしたのみで、教えるのは今回が初めてである。見学した際は、真面目な授業態度で純朴な生徒たちで、教師の発問に対して積極的に発言することは少ないが、問いかけには一生懸命応答しようとするという印象を受けた。習熟度別学級編成を取っており、このクラスは基礎クラスということで、英語に苦手意識を持っていることが予想される。このような実態を考慮して、本時授業では次のような点に配慮したい：

(1) 授業中、生徒に過度の緊張を強いないよう、直接指名して答えさせることは避ける。

(2) 発問に際しては、個人で考え→ペアやグループで相談し→発表する、という流れを取り入れる。

(3) 一斉に英語を使うなどして、間違いを恐れずに安心して英語を使える活動を取り入れる。

##### (2) 題材観：

ア) 内容・題材の観点から：

この教材は、12歳の少女セヴァン・スズキさんが、1992年に国連環境サミットに子供の環境団体の代表として参加し、各国代表を前にして行った講演を取り上げたものである。セヴァン少女は、生物学博士の父と文学博士の母の間に生まれ育ち、日ごろから地球環境問題に関して高い知識と関心を積み重ねていた。このスピーチの中でセヴァン少女は、悪化の一途をたどる地球環境と貧困・飢餓・生物絶滅危機を前にして、世界の大人たちがなおも自国の繁栄や経済・大量消費を優先し、有効な対策を取っていないことに対して強い不安と批判を表明し、言行不一致の大人の欺瞞を鋭く指摘している。セヴァンさんはその後も地球環境問題の改善のために国連を中心にして活動続け、現在はヴィクトリア大学の環境科学の大学院で学んでいる。

日本の高校の授業でこのスピーチを扱う意義は何だろうか？授業者は、日本の高校生がこのスピーチを読みながら、それをただ単なる英語トレーニングとして扱うのではなく、若い世代として「どのような世界的問題に心を悩ませ」「大人たちに何を要望したいか」を考え・表現する契機としてほしいと考える。

イ) 言語材料の観点から：

(1) 現在分詞の形容詞的用法の後置修飾

I am Severn Suzuki speaking for ECO./ We are a group trying to make a difference./ animals dying on this planet/ animals and plants going extinct every day/ some children living on the streets/ those children living in the *favelas*/ a child starving in Somalia/ など

(2) 英語特有の並行表現

本時の範囲では、“I am here to speak for---” “I am afraid to---” の繰り返し、part 2-3では “I’m only a child, yet---” と “You don’t know how to---” の繰り返し。これらは、同じ文型を繰り返し用いることで、聞き手の言語的負担を軽くしてメッセージをより伝わりやすくしようとする工夫であることを生徒に気付かせたい。

(3) 地球環境問題に頻出の単語

environmental, organization, generations, starving, around the world, planet, fix, ozone hole, chemicals, cancers, go extinct, extinct animals, vanish, issues(=problems), solutions, realize,

species, make waste, northern countries, the needy, wealth, acid rain desertification, destruction, deforestation, street children, shelter, share, greedy, victims of war, Middle East, poverty, solve problems, adults, creatures, global family

ウ) コミュニケーションの観点から：

このスピーチの中で、セヴァンさんは、世界の荒廃を前にした子供たちの不安を、大人たちに切々と訴えている。そのスピーチにならい、本課では、(1)高校生たちがどのような世界規模の問題に不安を感じ、(2) 大人たちに何を訴えたがっているかを、英語で発表する機会としたい。(1)は “As a member of a young generation, I am most worried about \_\_\_\_\_. ” という文章に乗せて、(2)は “Adults all over the world, please\_\_\_\_\_ for us and the earth family.” という文章に乗せて表現を作り交流する。

## 5. 教材の配列：

第1回：Part 1 (p.91) (本時)

第2回：Part 2 (pp.92, lines 1-14)

第3回：Parts 2-3 (page 92, line 15- page 94 , line 11)

第4回：Part 3 (p.95)

第5回：Part 4 (p.96)

第6回：言語事項の振り返り学習と、コミュニケーション活動(「私が世界中の大人に訴えたいこと」)

## 6. 本時の指導 (第1回： p.34)

(1) 教材 (コピーを別紙に添付)

(2) 本時の目標：

ア) 内容事項

Part 1はスピーチの冒頭部分である。ここでは、セヴァンさんが地球環境でどのような問題を心配しているのかを理解する。

イ) 言語事項

1) I am Severn Suzuki speaking for ECO./ We are a group trying to make a difference./animals dying on this planet/ animals and plants going extinct every day/など、現在分詞の形容詞的用法の後置修飾

2) 英語の並行表現

Part 1では、“I am here to speak for---” “I am afraid to ---”



の繰り返しによる並行表現を学習する。

3) 地球環境問題に頻出の語句

environmental, organization, generation, starving, around  
the world, planet, fix, ozone hole, chemicals, cancers, go  
extinct, vanish

ウ) コミュニケーション活動

- 1) 授業の初めに、生徒の緊張をほぐし、英語を使うことに慣れるために、picture differences の活動を行う。
- 2) 生徒 1 人 1 人が板書した、“I am most worried about \_\_\_\_.” というメッセージ集をみんなで見る。各自、特に共感するメッセージを 2 つ選んで付箋を貼る。全員が貼り終えたら、どのメッセージがみんなの共感を呼んだかを見る。これは、セヴァンさんのスピーチのが持つ問題意識に気付かせるために行う。

(3) 用意するもの：

CD プレーヤー、テキスト朗読 CD、ストーリーの Picture Cards、Picture Differences の絵、新出語フラッシュカード

(4) 指導手順： 次頁参照

配当時間 (分)	形態	生徒の活動	教師の支援	評価の観点
1	一斉	挨拶を返す	挨拶をする	
		①今日の授業では英語を使うことを楽しむのが目標です。②突然指名することはしません。 ③問いかけに反応してください、挙手、Yes-No、単語でもOK。		
5	ペア	ペアで、各自の絵の内容について尋ねあい、相手の絵とちがう箇所をみつけだす。	Picture Differencesはじめに、見本を使って、日本語で素早くやり方を例示。Pardon?やUh huhを多く発することを奨励。	①相手の絵を見ないでできたか。②言葉のビンボンゲームができていたか。
10	一斉	Oral Interactionに参加 教師の話すinteractionを聞いて、質問に答えたり、リピートしたりする。	Oral Interactionで本時教材を導入。平易な英語で、picture cardsで補助しながら、本時教材の内容の概要を話して聞かせる。問答形式で行う。Do you understand? Okay?を使う。単語フラッシュカードを貼りながらやる	教師の語りかけや問いかけに、積極的に反応を返せたか。
4		ここでグループに移行する。机を向かい合わせる。司会者とレポーターを決める。①閉本で、音声CDを聞いて質問に答える。(4分)	Pre-reading 活動焦点を絞ったタスクを与えて、本時教材を聞かせる。タスクは： (a) How many times do you hear "I"? (b) Severn says five numbers in her speech. Listen and catch the five numbers.	
9	4人	ここで開本する。 4人のグループに分かれて、別紙配布のgraphic organizerに適語を記入する形で内容をつかむ(5分) 答え合わせ4分	本時教材の内容理解活動 別紙配布のgraphic organizer(本書次ページに掲載)に、適語を記入して完成するタスクを通じて、内容理解を図る。①4人のグループで協力してタスクを解く。(4分)②各グループのうちレポーター2名が他のグループに移動して英語で答え合わせをする。(2分)③レポーター2名が自分のグループに戻り、他のグループの答を報告する。(2分)④グループとしての答を完成する。(1分)	グループとして協力して、どれだけ正解が出せたか。
5	4人	区切り・強勢を聞き取りハンドアウトにマーク→教師のあとに続いてリピート→教師と同時音読	新出語の発音練習 フラッシュカードを用いて行う。	強勢の聞き取りができているか。リズム良く音読できているか。
6	ペア	①～ing(形容詞的用法)と名詞(被修飾語)との意味的關係に気付く ②この用法が入った文を聞いて、クイズに答える。	本時の言語事項を応用したクイズ いろいろな動作をしている人物の絵を見せ、Who is the man planting flowers?といった質問に答させる。	クイズにどれだけ正解が出せたか。
7	一斉	"I am most worried about _____ problem."の形式で生徒各自が、自分の心配を板書し、相互に観賞する。 →クラスで最も共感を呼ぶものを選ぶ。	「若者の主張」のクラス内意見交換 板書された各生徒の意見をクラス全員が鑑賞し、付箋によって意見ベスト3を決定する。	①[主張+根拠]の構成で意見表明が書けたか。
2	一斉	宿題：虫食い和訳シートを完成してくる。	今日何を学習したのかをまとめる ①How young girls tried to make a change. ② How you, high school students, are worried about the world. ③---ingが前の名詞を修飾する用法	

下記の表の、一部をヒントとして残し、他は空欄にして配布する。

<b>Who is</b>	children	animals	the sunlight	the air	the water	animals and plants
<b>in what condition</b>	starving	dying	harmful	bad	bad	going extinct
<b>because of what causes?</b>		have nowhere to go	there is an ozone hole	there are chemicals in it	there are chemicals in it	

## 5. 授業の核(core)その2：新出文法事項の Oral Interaction による導入

この節では、中学校の文法事項を幾つか取り上げて、コミュニケーションを重視した文法事項の導入からまとめまでの運営法を解説する。中学校の英語教科書の1時間分のセクションには、重点となる文法事項が大体1つずつ配置されている。その文法事項を含んだ文は、その日の **key sentence** と呼ばれている。コミュニケーションを重視した文法事項の指導は普通次のような手順で行なう。  
(*Sunshine English Course 2*, 1999, Program 11 を例として用いる。)

### 5.1 帰納的導入から入る

新出文法事項の導入は、できるだけ帰納的提示から入る。つまり、生徒にとって身近な話題で、生徒に容易に理解可能な英語で、教師が小話・説明・実演などを行い、その話の中に新出文法事項を組み込んで、文脈からおおよその意味を推測できるようにする。「新しい表現が入っているけど、話の流れからすると、大体こんな意味かな」と推測できるようにするのである。

例えば、現在完了形を導入するには、次のような小話はどうだろうか：

教師「一郎さん（25歳）が、幼な馴染みの Cindy に愛を告白しています。」

Ichiro: Cindy, please marry me.

I loved you at 15 years old.

I loved you at 16 years old.

I loved you at 17 years old.

I loved you at 18 years old.

I loved you at 19 years old.

I loved you at 20 years old.

I loved you at 21 years old.  
I loved you at 22 years old.  
I loved you at 23 years old.  
I loved you at 24 years old.  
And I love you now!

このようにして文脈の中で新出  
文法事項に出会わせる

Cindy: So, you have loved me since 15 years old.

Ichiro: Yes, that's right! I have loved you since 15 years old.

Cindy: Oh, Ichiro, my dear. I have waited for your words since I was 15!

(Happy-end)

教師「さて、一郎は“I loved you.”って何回も言っていますね。ところが Cindy はその 10 個の “I loved you.”をたった 1 文の “You have loved me.”と言い換えています。この ‘have loved’って、ただの ‘loved’ (愛した) とどう違うんでしょうね？」

生徒「ず〜っと愛している」っていう意味だと思います。

このようにして新出事項の  
意味の仮説を立てさせる。

教師「そうか、‘have loved’は『ず〜っと---している』という、継続を表わすんだね。では、‘since 15’はなんだろう？」

生徒「15 歳から、だと思います。」

教師「なるほど、‘since’は「---からずっと」、という意味なんだね。

では、この仮説を、次の小話で確かめてみよう。今度は東山動物園のサルの Jan ちゃんと Ken ちゃんの話をするから、‘have ---’に注意して聞いてね。

(2 頭のサルの写真を見せながら)

Look at these monkeys. They are cute, aren't they? They are Jan and Ken.

They are very old. Don't be surprised. They are 19 years old!

They came to Higashiyama zoo at 1 year old.

They lived in Higashiyama at 2 years old.

They lived in Higashiyama at 3 years old.

(中略)

And they live in Higashiyama Zoo at 19 years old.

ハアーッ、先生疲れちゃったよ。でもついに最後までたどり着いたぞ、Jan

と Ken の東山動物園歴を一言で言ってみます。なにに、池田さん、自分で言いたって？ではどうぞ」

生徒 ‘They have lived in Higashiyama Zoo since 1 year old.’

教師 「すごいね！いいよ。」

‘They have lived in Higashiyama Zoo since 1 year old.’だね。

さっきは‘have loved’で「ず～っと愛している」だったから、今度の‘have lived’

はどういう意味なんだろう？」

生徒 「『ず～っと住んでいる』です。」

教師 「そう！」「では since 1 year old は？」

生徒 「『1 歳から』です。」

このようにして、さっき立てた仮説を検証させる。

教師 「Very good.！」「では今度は、ある野球選手の話をしよう。」

Look at this man. Who is he? Right! He is Matsui Hideki, a world-famous baseball player.

He started baseball at 8 years old.

He played baseball at 9 years old.

He played baseball at 10 years old.

(中略)

Now, he plays baseball at 35 years old.

さて、松井選手の野球歴を一言で言ってみよう。はい、吉田君。

生徒 ‘He have played baseball since 8 years old.’

教師 「Great! 良くわかったね、吉田君。90% 正解！あと 10% は何かって？」

主語が he や she の時は、‘He have played baseball since 8 years old.’じゃなくって---

生徒 He has でした！

教師 そう！‘He has played baseball since 8 years old.’ですね。では、今までに出会った文をまとめて書いてみよう。

このようにして、教科書の文へつなげる

I	have loved you	since 15 years old.
They	have lived in Higashiyama zoo	since 1 year old.
He	has played baseball	since 8 years old.

それでは、教科書のこの文章はどういう意味なんだろう？

(その日の key sentence の意味を推測させる。)

(板書例) 本日の key sentence

Lorenz	<u>has studied</u>	animals	since 1920.
ローレンツは		動物を	1920 年以來

< 解説 > 帰納的提示の意義

帰納的提示とは、当該の文法事項を含んだ平易な実例を豊富に見せ、その中から生徒にルールを発見させる方法である。生徒が言語データから言語法則を自ら類推する力を養うので、自立した **learner** を育てる上で有用である。

< 帰納的提示の注意事項 >

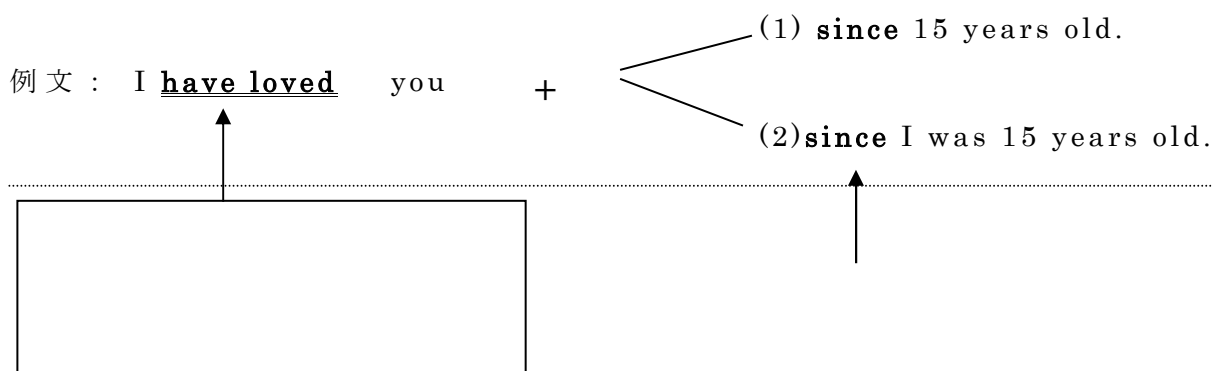
- (1) 平易な文脈の中で与える。
- (2) 新出事項は、1 つの形に限定する。上の、現在完了形の帰納的提示例を見てほしい。現在完了形の 3 の用法のうち、「継続的用法」のみに限定し、しかも形を最初の 2 例では下線部に限定して提示している。その後、教科書とつなげる段階で波線部を追加している。

I			
<u>You</u>	<u>have</u>		
<u>They</u>		<u>lived in Higashiyama</u>	<u>since 15 years old.</u>
<u>He</u>	<u>has</u>		since ---was 15 years old.

## 5.2 演繹的にまとめる

演繹的提示とは、まずルールを与え、次いでそのルールを応用させて理解を養う方法である。帰納的か演繹的か、どちらが得意かは生徒によって個人差があるので、授業では両方を併用することが望ましい。帰納的で導入して、生徒が平易な実例文に多数出会ったあとで、その実例文を使って演繹的にルール抽出に移るとよい。演繹的提示では、不用意に文法用語を乱用して生徒を混乱させることのないよう心がけたい。

演繹的提示の板書例



have+ 動詞の過去分詞  
(has)

since+年号・月日・時刻で「～  
以来」  
since+主語+動詞で「○○が～  
して以来」

### 5.3 新出の文法事項がわかるとどんなに便利かを理解させる。

新しい文法事項を導入する時、生徒に「また勉強の負担が増える！」と思わせないように、むしろそれを学ぶことによって広がる自由や便利さをわからせたい。例えば、上で扱った現在完了形の提示では、Ichiro の 11 個の文の内容を、Cindy がわずか 1 文で表現した便利さを生徒に納得させたい。

### 5.4 ‘be going to’の導入 (New Horizon English Course 2. 2009, p.12)

帰納的導入の例



*Hello. My name is Tohru. I am now on my plane to Australia. This gentleman is sitting next to me.*

(Tohru) Excuse me. My name is Tohru. What are you planning to do in Australia?

(Bill) My name is Bill. I am going to swim in Australia.

(Tohru) Oh, Bill, you are going to swim in Australia. Have a good time.

*This lady is sitting next to me.*

(Tohru) Excuse me. My name is Tohru. What are you planning to do in Australia?

(Emi) Nice to meet you, Tohru. My name is Emi. I am going to teach Japanese

in Australia.

(Tohru) Wow! Kumi, you are going to teach Japanese in Australia. Good luck!

*This gentleman is sitting in front of me.*

(Tohru) Excuse me. My name is Tohru. What are you planning to do in Australia?

(Ken) My name is Ken. I am going to play golf.

(Tohru) Ken, you are going to play golf in Australia. Have a good time.

*This girl is sitting behind me.*

(Tohru) Excuse me. My name is Tohru. What are you planning to do in Australia?

(Aya) My name is Aya. I am going to ski in Australia.

(Tohru) Aya, you are going to ski in Australia. That's exciting! Have a good time.

これまでの例文からルールを抽出する

具体例からルールの抽出へ

I	am going to	study English	in Australia.
Bill	is going to	swim	in Australia.
Emi	is going to	teach Japanese	in Australia.
Ken	is going to	play golf	in Australia.
Aya	is going to	ski	in Australia.
We	are going to	go	to Australia.

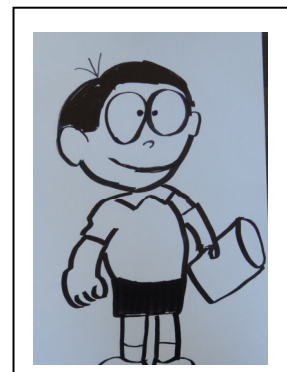
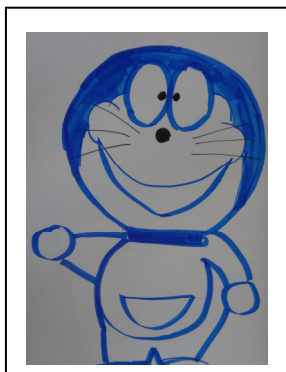
**am** }  
**is** } **going to + [ 動詞の原形 ]**  
**are** }

「これから～することになっている」



5.5 to 不定詞（名詞的用法）の導入（*New Horizon English Course 2*, 2009. p.23）

下記のような4枚の絵を見せ、それぞれの人物が好きな事柄を、(a) 名詞で、(b) to 不定詞で、表現して聞かせる。生徒は、(a)からの類推で、(b)も名詞的であることを推測できるはずである。



<Dorachan> (a) I like dorayaki-cake.  
(b) I like to fly.

<Shizuka> (a) I like flowers  
(b) I like to study.

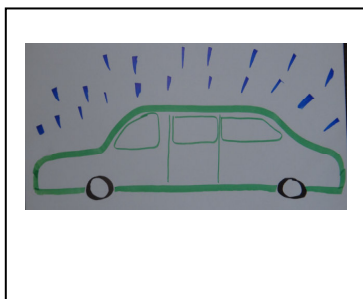
<Gian> (a) I like baseball.  
(b) I like to sing.

<Nobita> (a) I like peanuts.  
(b) I like to sleep.

(a) I don't like homework.  
(b) I don't like to study.  
(c) I want to marry Shizuka.

5.6 受動態の導入（*Sunshine English Course 3*, 2009. p.24）

下記の picture cards と教師の動作で理解を補助しながら、下記の実況中継で受動態の文を理解させる。



Hello, everyone.

I am a news reporter. I am now standing at the gate of Higashi Junior High School.

Tonight, Michael Urashima's concert starts in the school gym at 7 o'clock.

You know, Michael Urashima is very popular among students.

He is loved by many junior high school students.

So, the concert tickets are sold very fast---now the tickets are sold out!

It is 6:30. Oh, there comes the School Principal.

He has a pair of scissors in his hand.

Now the tape is cut. The tape is cut by the principal.

Music is played by the brass band club. The school gate is opened.

Where is Michael? He has not arrived. People are waiting for Michael Urashima's car.

Michael's car has just arrived at the school gate. The door is opened

Michael comes out of the car.

Many pictures are taken. Many pictures are taken.

Oh, a little girl runs up to him. Oh, my God, she kisses Michael—Michael is kissed by a little girl!

## 5.7 帰納的導入の 6 原則

新出文法事項を帰納的に導入する際には、次の 6 つの原則に従って行えば、生徒に理解しやすく、しかも興味深い小話となる。

### (1) 一連ストーリーの原則

新出文法事項を含んだ例文を数個、首尾一貫した一連のストーリー（小話）の中で提示すること。

### (2) 既習文限定の原則

帰納的導入に用いる小話は、既習文と既習語に限定して作る

### (3) 一項目限定の原則

一度の導入では、新出文法事項は 1 項目のみに限定して行う。同時に複数の事項を導入してはいけない。

### (4) 実物・実演の原則

導入にあたっては、できるだけ実物やポスターを伴い、動作で実演して見せて理解を助ける。

### (5) 繰り返しの原則

小話で、重要な部分は繰り返して何度も聞かせ、必要ならば手短に板書する。  
また導入小話は、少なくとも 2 回繰り返して聞かせる。

(6) それ自体の価値の原則

小話は、そのストーリー自体に、聞くに値する価値や面白さがあるよう工夫すること。